

ふれてみよう島の暮らし

～ 家島諸島を巡って～

★チーム名: 「さすらい5人衆」

★メンバー名:

- ・蛭田 武 (リーダー) ・幸田 嘉祥 ・黒岩 薫、
- ・福井 百合子 ・田中 和子

◆ 離島のメリット・デメリット

・日本の離島数 **6,847**、・有人島 **416**（全体の6%）

★ メリット

- ① 徒歩圏内に海や山の大自然がある。
- ② 時間がゆっくり流れている。
- ③ 通勤も楽しい。
- ④ 地元産の生鮮品は鮮度が高い。
- ⑤ 未知の食材と出会える。
- ⑥ 島全体で子育てできる。
- ⑦ 島民の連帯感が強い
- ⑧ 意外に仕事とチャンスがある。

★ デメリット

- ① マイカーがないと移動手段に困る。
- ② 最低賃金が安い。
- ③ 船が欠航すると孤立する。
- ④ 道路の整備が行き届いていない。
- ⑤ スーパーや薬局が少ない。
- ⑥ お店が早く閉まる。
- ⑦ 医療や介護施設がほとんどない。
- ⑧ うわさ話がネットより早く広まる。
- ⑨ 島外からの受け入れ体制がない。²

テーマの狙い

日本の離島には、多くの問題や課題があると思います。

そんな離島の現状と課題を求めて我々「**さすらい5人衆**」は、京阪神からも近い、瀬戸内海の青く穏やかな海、新鮮な魚介・豊かな自然と遺跡、歴史、産業のある「**家島諸島**」にフォーカスを当て、今回の学習の研究対象としました。



漁港

家島(真浦港)



採石場

男鹿島

● 主なる研究内容

(1) 家島諸島4島の特色と産業

① 漁業、②採石、砕石③海運業、④観光業

(2) 島の抱える現状の課題

特に人口減少、各産業における問題点
の抽出

(3) 島が生き残る為の施策・あるべき 将来像



◎フィールドワーク

- 第一回フィールドワーク (2021年10月29日 家島観光)
- 第二回フィールドワーク (2022年3月3日 高島宮司、中西氏面談)
- 第三回フィールドワーク (2022年6月30日 坊勢島漁業協同組合訪問)
- 第四回フィールドワーク (2022年7月24日～25日 天神祭、観光、
家島姫路事務所)
- その他フィールドワーク(2022年6月23日 姫路市役所水産漁港課訪問)



家島諸島の概要

- ◆家島諸島は、姫路市内から沖合約18Kmにあり、東西26,7Km,南北18,5Kmにわたり**大小40余りの群島**で構成されています。
- ◆人々が暮らすのは、**家島・坊勢島**(ぼうぜじま)・**男鹿島**(たんがじま)・**西島**の4島で、人口は**約5,000人**(うち家島本島が半数を占める)
- ◆産業は**漁業**、**採石**(花崗岩の切り出し)**砕石**等が中心で、**観光**としても名所旧跡等あり、1部は**瀬戸内海国立公園**に属しています。



各諸島の特徴

★家島(本島)

- ・**家島の由来**は、古く神武天皇が瀬戸内海を航行中に立ち寄られ、波静かにして家の中に居るようだと、仰せられたことからついたと言われています。
- ・**島の歴史は古く**、多くの伝説や物語が存在しています。
- ・毎年盛大に行う「天神まつり」の祭神が祀られている**家島神社**は、延喜式という**平安時代初期に出来た歴史のある神社**で、その頃には、馬の牧場もあり、朝廷のために馬を育てられた。
- ・主な産業は海運業、採石、漁業、観光で、**諸島の中では一番人口が多く**、現在では**2,693人**が住んでいます。



家島神社



◆ 天神祭り



19期の下級生たちも「家島」は初めてなので、
私たちに便乗して付いてきました。



だんじり船



天神祭り



● 天神祭り (真浦地区と宮地区との違い)

—だんじり船—

真浦(アルミ製)

宮(プラスチック製)

・屋根が赤くて低い

・屋根が黒くて高い

・舞台が低い

・舞台が狭い



—衣装—

真浦

宮

- ・鉢巻きに真浦の「真」が入っている
- ・化粧が濃い
- ・帯の中にお守り
- ・化粧まわしに獅子が描いてある
- ・鈴がついている

- ・鉢巻きにお守りが入っている
- ・化粧は薄い
- ・後ろに鈴がついている
- ・帯は上は白、下は緑
- ・化粧まわしに宮島神社の紋が入っている



祭りに来ていた地元の人インタビュー

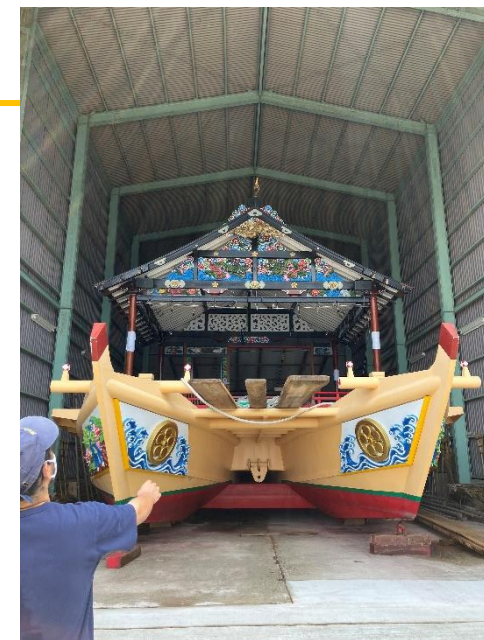
一泊二日の今回のフィールドワーク。高台のホテルに泊まりました。夕食の料理は食べきれないほどでした。



- 最初に祭り保存会の会長に「保存会は何人いるか」と尋ねたら、「30人くらいだけれど、若い人が居いない」との回答。
- 次に日焼けされた背の高い男性に「生まれも育ちも家島ですか？お仕事は？」と聞くと、「島から出たことがなく、砂利運搬船で勤めている」とのことだった
- 3歳の坊やに「お祭り好き？」「うん」お父さん、お母さんも傍に来られ、「昔ほどでないけれど、祭りになると、島外から帰って来るのが嬉しい」と言っていた。



1泊したお陰で、お囃子、笛や太鼓、獅子舞、そして可愛いお稚児さん。目に焼き付く程堪能しました。いったいどれほど練習されたのかと思うほど素晴らしい獅子舞でした。翌日は倉庫に収まった「だんじり船」も見学することが出来ました。



★坊勢島

- ・家島本島の次に人口が多く、2,052人で漁業を主要産業とし、兵庫県 下1, 2位を争うほどの漁獲量、漁獲高で、現在では水揚げ量、金額ともに兵庫県一を誇ります。また漁船でも一つの漁港としては、日本一です。(漁船数 853隻)

- ・島の名前の由来は、元慶7年(883年)比叡山の高僧覚円が坊瀬島に流された時、覚円を慕って、比叡山の若い僧侶が、大勢島に渡って来たので、この名前がつけました。

- ・島は日本でも珍しい軽自動車バス、軽救急車、軽パトカー、軽消防車が坂道や狭い島内を駆け抜けて、島民の生活と命を守っています。



- ・坊勢島漁業協同組合で紹介いただいた、船上レストランで、水槽に入った、とれとれの魚を選び、そこで料理してもらい食べました。



★ 男鹿島

- ・面積4,37km²、周囲9,99kmで、過去には**採石作業に携わる町民と朝鮮半島からの住民で賑わっていました。**
- ・**島名の由来**は、応神天皇(西暦270年)頃、雄鹿2頭のうち1頭が海を泳いで姫路から現在の男鹿島付近に渡り、「男鹿」と言う地名はここからつけられたと伝えられていますが、対岸の姫路市には、「妻鹿」と言う地名があり、歴史のロマンを感じます。
- ・今は採石産業も廃れ、島の生活は寂れていますが、**水のきれいな海水浴場**があり、シーズン中は観光客で賑わっています。
- ・この島にある大山(標高200m)の平坦な土地には、**弥生時代の住居跡が出土**されています。



★ 西 島

- ・姫路市の南西沖約18Kmの坊勢島の西側に位置する**面積が一番大きく**、古くは高島と呼ばれていました。
- ・**100年以上の石の歴史**があり、山肌が削られて地肌がむき出しになっています。「**花崗岩**」「**安山岩**」の2種類を採掘し、最盛期には、年間約1300万m³の砕石量を誇っていました。
主に採掘された砕石は、幕末から始まり、明治には180隻の運搬船を持ち、戦後は大型重機が採石場に投入され、**百軒の業者がこの島で仕事**をしていました。その中には、**朝鮮人労働者**もいました。
主に砕石された石は、神戸・大阪の湾岸や関西・神戸空港の埋め立てなどの**公共事業**に使われ、島は潤っていました。
- ・島内からは、**縄文や弥生時代の遺跡**が発見されています。
- ・京阪神の子供たちの自然体験が出来る「**自然体験センター**」もあります。



「近づくとも病気が
移る」
「夜になると光る」
「石の西側では、
磁石が狂う」
など言われている。

コウナイの岩

◆朝鮮初級学校

経緯

- ・1945年から1969年3月 採石業に朝鮮人労働者も従事
- ・**1946年** 国語講習所として西島に**開校**
- ・1947年4月 飾磨朝鮮学院家島分校として再出発(教師1人、生徒**35人**、修学4年)
- ・1948年10月 家島朝鮮小学校に島内の日本人児童も修学(全校生27人中 **日本人5人**)
- ・1949年11月 日本当局が「**朝鮮学校閉鎖令**」発令
→ 当時の支部当局がGHQ宛に「閉鎖」を提出、しかし、家島町長と朝鮮学校教育長話し合いの上、「**存続**」
- ・**1969年3月** 朝鮮人が居なくなった為、「**廃校**」

54の瞳・瀬戸内海の島にあった朝鮮小学校伝説



1956年の家島朝鮮小学校の先生と学生



年月不明。学芸会の様子



◆ 家島諸島の3大産業の現状

① 漁業

播磨から京阪神間に新鮮な水産物を提供しており、特に**坊勢島**においては、兵庫県下でも有数の漁獲高を誇っているが、燃料費の高騰により**経営環境が厳しい**上に、**漁業者の高齢化により漁業従事者も減少傾向**にある。

● 坊勢漁港正組合員数推移 単位:人

年 度	会員数	年 度	会員数
平成24年度	521	平成29年度	486
25年度	572	30年度	482
26年度	507	令和元年度	479
27年度	495	2年度	472
28年度	491	3年度	460

● 水揚げ高の推移 単位:百万円

年 次	底引・磯端 漁船漁業	船曳網	海苔 養殖	その他	合 計
H28年度	2,101	1,914	2,045	234	6,294
29年度	2,189	1,335	2,542	483	6,549
30年度	2,049	1,765	2,143	582	6,539
R元年度	2,125	647	2,381	515	5,668
2年度	2,222	805	1,447	348	4,822
3年度	2,355	1,059	1,135	505	5,054

② 採石業・海運業・造船業

採石業は**男鹿島**と**西島**、海運業は**家島**が中心となり、日本の産業発展に大きな役割を果たしてきたし、本地域は、石材を運搬する**船舶(ガット船)の基地**として発展してきたことから、造船業や鉄工業なども栄えてきた。しかし、**公共事業(大阪湾、関西・神戸空港などの埋め立て)の完了**や**景気低迷**で雇用が減少し続けている。



採石業の経緯

家島町の石材の活用は、古くを遡れば、江戸時代に男鹿島の石材を大阪に売ったのがその始まりだと言われている。本格的な産業として発達したのは明治以後で、二度の世界大戦を契機として港湾建設などが活発化したことから、石材需要が増加、産業としての発展に弾みがつき、石材産地としての知名度が大きなものになっていた。

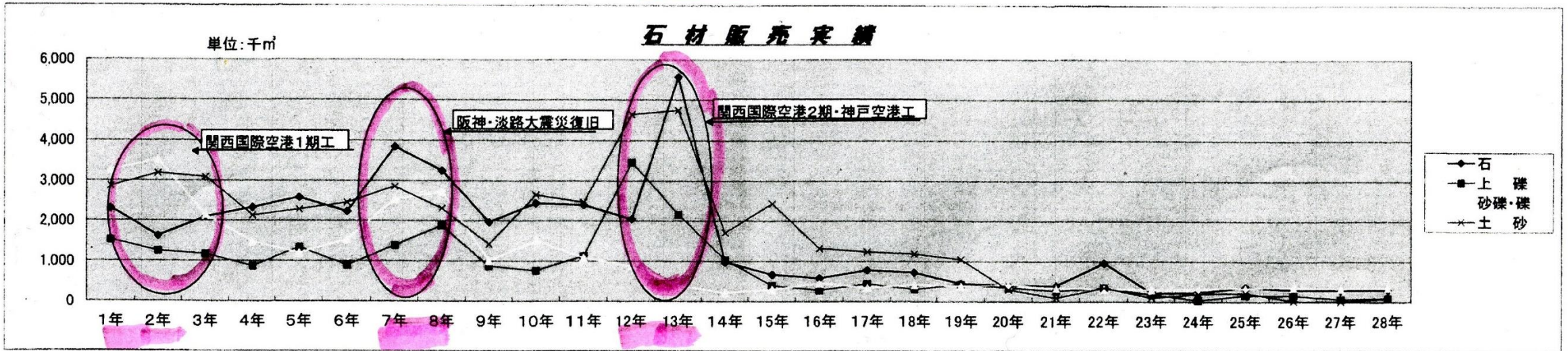
近年の採石状況

採石は、主に男鹿島・西島の2島で行われます。男鹿島の地質は主に花崗岩質であり、その用途は埋め立て用の石材が中心であり、一方西島は安山岩質で主にコンクリート骨材として使用されている。大阪湾の護岸工事の基礎石の90%近くを家島から産出したと言われており、近年は関西国際空港1期・2期工事や阪神・淡路大震災で影響を受けた港湾の修復工事及び神戸空港など大量の石材を供給してきたが、景気や公共事業の動向に大幅に左右されるため、平成13年をピークに、その後は減少傾向をたどり現在にいたる。

石材販売実績一覧表

(単位:千㎡)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	合計
石	2,306	1,617	2,086	2,321	2,576	2,224	3,842	3,249	1,963	2,436	2,390	2,043	5,565	981	667	580	785	724	452	409	396	958	224	233	370	298	292	302	42,289
上 礫	1,521	1,247	1,169	864	1,339	892	1,389	1,878	871	760	1,126	3,454	2,155	1,032	395	284	442	309	428	347	265	346	190	43	163	159	71	97	23,236
砂礫・礫	3,254	3,518	2,140	1,478	1,199	1,530	2,529	2,714	1,006	1,509	1,082	878	400	226	299	454	346	418	385	423	342	322	308	315	350	359	326	357	28,467
土 砂	2,865	3,180	3,092	2,124	2,278	2,450	2,847	2,302	1,414	2,642	2,461	4,644	4,746	1,702	2,422	1,318	1,238	1,189	1,050	299	96	347	105	200	225	18	11	87	47,352
合 計	9,946	9,562	8,487	6,787	7,392	7,096	10,607	10,143	5,254	7,347	7,059	11,019	12,866	3,941	3,783	2,636	2,811	2,640	2,315	1,478	1,099	1,973	827	791	1,108	834	700	843	141,344



事業所数、従業員数

家島町で採石を行う事業所数は、昭和 30(1955)年頃には130事業所をかぞえたが、次第に小規模事業者が統合され、昭和 40~41(1956~66)年頃には 70~80 事業所に減少し、その後も減少傾向で推移してきた。

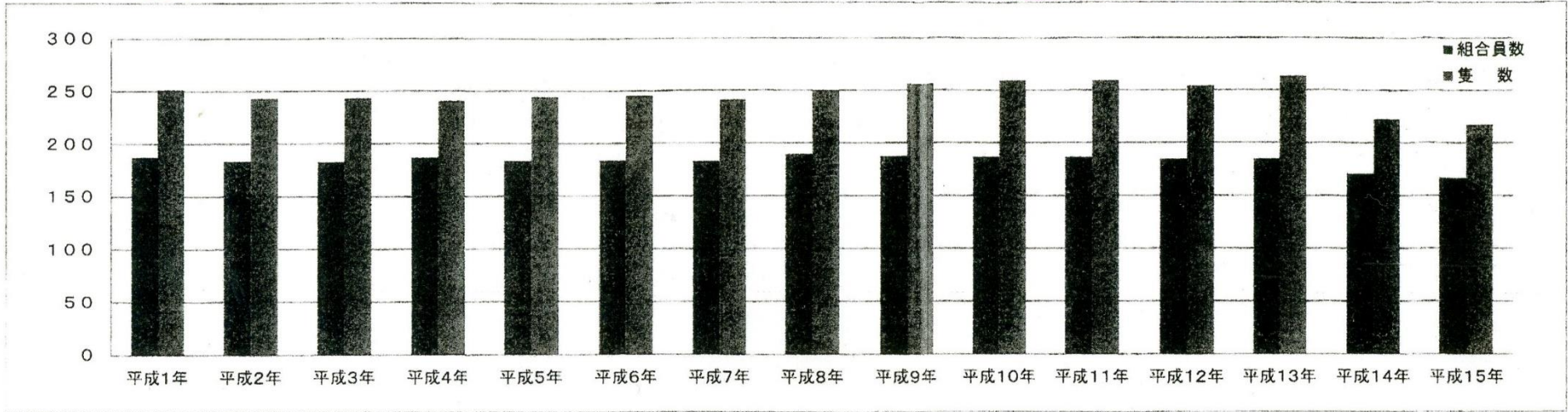
	昭和50年度 (1975年)	昭和55年度 (1980年)	昭和60年度 (1985年)	平成2年度 (1990年)	平成6年度 (1994年)	平成12年度 (2000年)	平成15年度 (2003年)	平成17年度 (2005年)	平成20年度 (2008年)	平成22年度 (2010年)	平成25年度 (2013年)	平成26年度 (2015年)
採石場(事業所)	53	44	39	38	34	32	28	25	16	16	13	12
従業員(人)	255	217	142	137	181	258	143	107	86	98	69	45

内 訳
採石業者 9
砕石業者 18
3

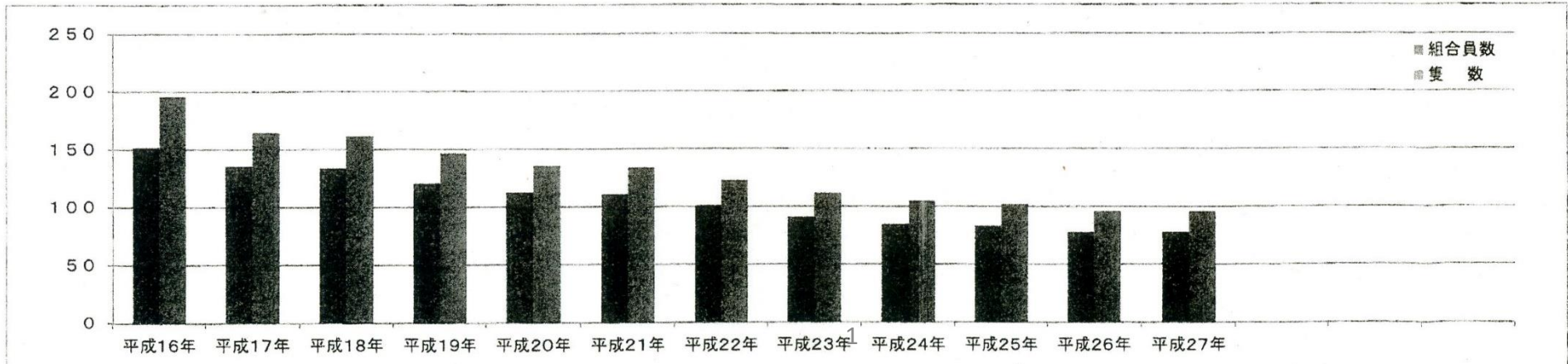
事業者数及び船舶推移表(平成1年～平成27年 ガット船)

資料3

年 度	平成1年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
組合員数	188	184	183	187	184	184	183	190	188	187	187	185	185	171	167
隻 数	252	244	244	241	245	246	242	251	257	260	260	255	264	223	218



年 度	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
組合員数	152	136	134	121	113	111	101	91	85	83	78	78
隻 数	196	165	162	147	136	134	123	112	105	102	96	96



③ 観光業

家島本島を中心に観光地はあるが、宿泊施設や飲食店など観光客が利用する関連施設は、**施設の老朽化**に加え、**従事者の高齢化・後継者の育成**が課題となっている。

特に住民の中で、新しい投資をして発展させようとする気運が少ない為、**観光地としては中途半端な状態**である。

● 家島本島の観光者数

区 分	平成17年	平成22年	平成27年
家島群島	146,000人	179,000人	194,000人

★ 観光業

● 家島(本島)



家島神社



真浦神社



どんがめ



島の路地裏 (道も狭い)

●坊勢島



漁業中心の島だけに、観光としては、さほど見る所はない。

港の近くに弁天島があり、「神権さん」の名前で親しまれ、岩の上に海神、竜神、弁財天が祀られている。

魚が新鮮なので、京阪神からも魚料理を食べに来る人も多い。



恵美酒神社



海神社(弁天島)
岩の上に海神・竜神・
弁財天が祀られている



● 西 島

家島諸島の中では最大の面積を持ち、男鹿島と同じく**採石の島**。住民も数人しか住んでおらず、観光地としての魅力はないが、**自然学校**に訪れる子供たちや家族連れが、ロッジで滞在し、ヨットやカヌーなどの**マリンスポーツ**や**アスレチック**などのアウトドアが満喫できる。



カヌー



地引網



イカダ作り



★ 漁業における問題点

家島諸島には、二つの漁業組合があり、この中で「保有漁船舶数が日本一」と誇っている**坊瀬島漁業協同組合**を訪れました。(理事長、部長に面談)

① 坊勢漁協の正組合員数の推移

2005年	2010年	2015年	2022年
569人	541人	495人	460人
	-28人	-46人	-35人

新規加入組合員は毎年4~5人で、正組合員数は**逡減傾向**にある。

② 坊勢島漁協 年齢別組合員 (2022年3月現在)

分類	員数	%	分類	員数	%
~19歳	3	0,6	60~69歳	91	19,8
20~29歳	29	6,3	70歳~	87	18,9
30~39歳	46	10	合計	460	100
40~49歳	74	16,1	平均年齢	54,9	
50~59歳	130	28,3	23		

50歳以上の組合員数は、308人で全体の**67%**を占め、高齢化が進んでいる。

③ 水揚げ高の推移(4年間)

(単位:百万円)

年次	底曳・磯端 等漁船漁業	船曳網	海苔養殖	その他	合計
平成30年度	2,049	1,765	2,143	582	6,539
令和元年	2,125	647	2,381	515	5,668
令和2年	2,222	805	1,447	348	4,822
令和3年	2,355	1,059	1,135	505	5,054
	41,6%	20%	22,5%	10%	

※ 船曳は1隻に4名が乗り、70～80日操業をするので、底曳き、磯端の漁師から補充し、応援体制をとる。

● 坊勢島漁協の課題

- ① 魚の産地としての知名度が低い
- ② 販売力がない
- ③ ブランド魚(「**ぼうぜ鯖**」「**ぼうぜガニ**」「**華姫さわら**」など)を作っているが、知名度不足
- ④ 魚価の低迷



ぼうぜ鯖

坊勢漁協組合員の営む主な漁業

表層



のり養殖漁業

25.4億円

25協業体



かき養殖漁業

3.3億円

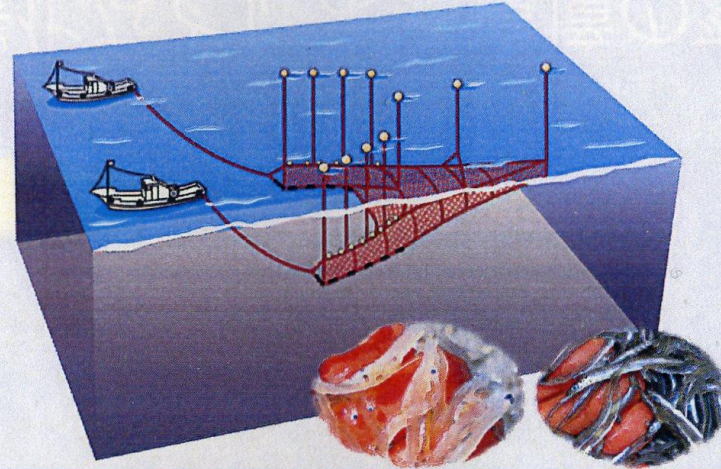
12経営体

中層

船びき網漁業

13.3億円
58統

- ・イカナゴやシラスをとります

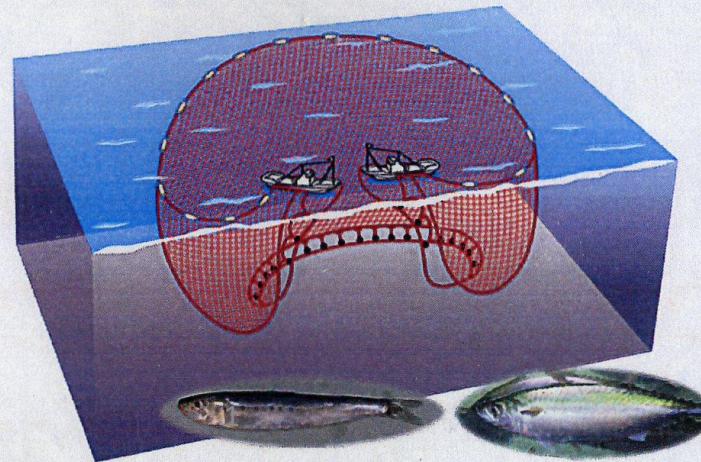


中層

まき網漁業

10.1億円
4統

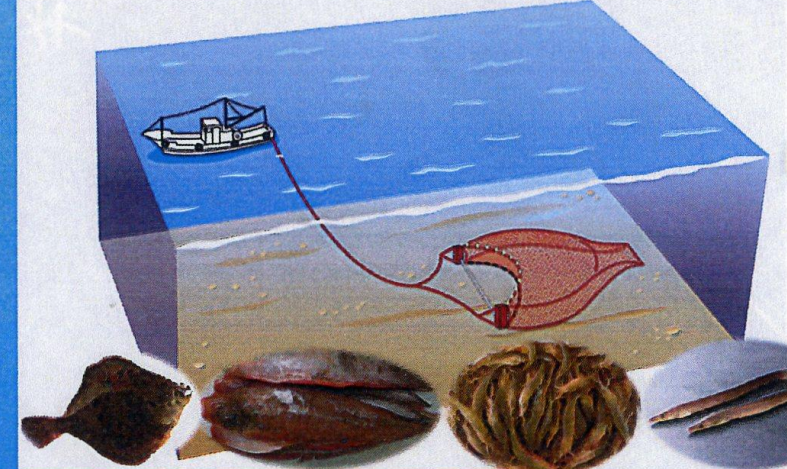
- ・イワシやサバをとります



低層

底びき網漁業

- ・カレイ、エビ、ハモなどをとります



漁業権漁業 磯端漁業

- ・刺網、小型定置網、かご、いさりなど
- ・島の周辺でメバルやイカ、タコ、カニ、サザエ、ナマコなどをとります



坊勢漁協でも会員の高齢化が進み、新たに参入する若者が少ないのが悩み。その要因として、

(1) 労働環境の厳しさ

漁業は**3K(きつい、汚い、危険)**のイメージが強く、労働時間が不規則である。

(2) 少子高齢化

もともと50歳以上のベテラン層が多いため、少子高齢化が進めば、比例して年齢層は、更に上がる。その為、若者を重点的に採用しない限り、**人手不足**は益々深刻になる

(3) 過疎化

過疎化が進むと人手が足りなくなり、最終的には**廃業**せざるを得ない場合も起こりうる。

(4) 漁業環境の変化

海の豊かさの消失や温暖化などによる変化、水産資源が減少し、**水揚げが減少**し、水揚げが減る。

区 分	平氏17年		平成22年		平成27年	
	人口	高齢化率	人口	高齢化率	人口	高齢化率
家島本島	4,573人	22,8%	3,355人	32,0%	2,693人	42,3%
坊勢島	2,962人	15,3%	2,555人	19,1%	2,165人	24,5%
男鹿島	133人	32,3%	72人	—	38人	—
西島	56人	8,9%	5人	—	2人	—
計	7,724人	20,0%	5,987人	26,5%	4,898人	34,5%

※ 平成22年、27年の男鹿島及び西島の高齢化率は、家島本島、坊勢島に含む。

家島諸島全体で、平成17年から平成27年の10年間で、2,826人、割合にして36,6%と大幅に減少した。

島別にみると、

家島本島41,1%減、坊勢島が26,9%、男鹿島が71,4%、西島が96,4%と全て減少。
 高齢化率はこの10年間で、14,5ポイント増と急速に高齢化が進んでいます。

◆ 家島諸島の課題のまとめ(フィールドワークから)

- (1) 若年層の減少と高齢化による**労働力の不足**
- (2) かつて盛んだった産業(採(砕)石・海運・造船など)の**衰退**
- (3) 若い島民の**島外への流失**(家島本島にある1校の高校も姫路市に移転)
- (4) **観光資源**(歴史、遺跡、文化、産業、自然体験など)が十分活用されていない。
- (5) 最大産業の**漁業のブランド品**の宣伝不足や販売ルートの不足。
- (6) **若者のUターン就職**や**新しい移住者の受け入れ体制**が未整備。

◆ 今後の対策

★ 観光業

(1) インバンド観光の推進

宿泊を伴う滞在型観光の推進の観点からも、姫路城から家島諸島まで足を延ばしてもらう為の**情報発信の充実**や**外国人を含む受け入れ体制**の整備（宿泊施設、飲食店、土産物店、ガイドなど）
後継者の育成や**新規起業者の進出支援**が必要。

(2) 情報通信基盤の整備

観光などの産業の新興を促し、**新たな雇用の創出**につなげることが必要。

(3) 町起こしの事業の推進

過疎化を防ぐために**若者の定住**や**島外からの移住促進**と活気のある地域づくりの促進。

★ コンシェルジュ 中西さんの活動紹介

- ・ **オンラインイベントや説明会**を開催する
(広報力・交流、民間企業の誘致)

- ・ **※ 関係人口の受け入れ体制**を整える
(宿泊施設の充実・空き家バンク)

- ・ **阪神間の大学とのタイアップ**による大学生の誘致。
(兵庫県立大学、近畿大学の学生)



10年前に大阪から移住し、現在観光ガイド、若者の移住者の受け入れ体制づくり、家島ブランド商品の開発など、家島の活性化に活動されています。

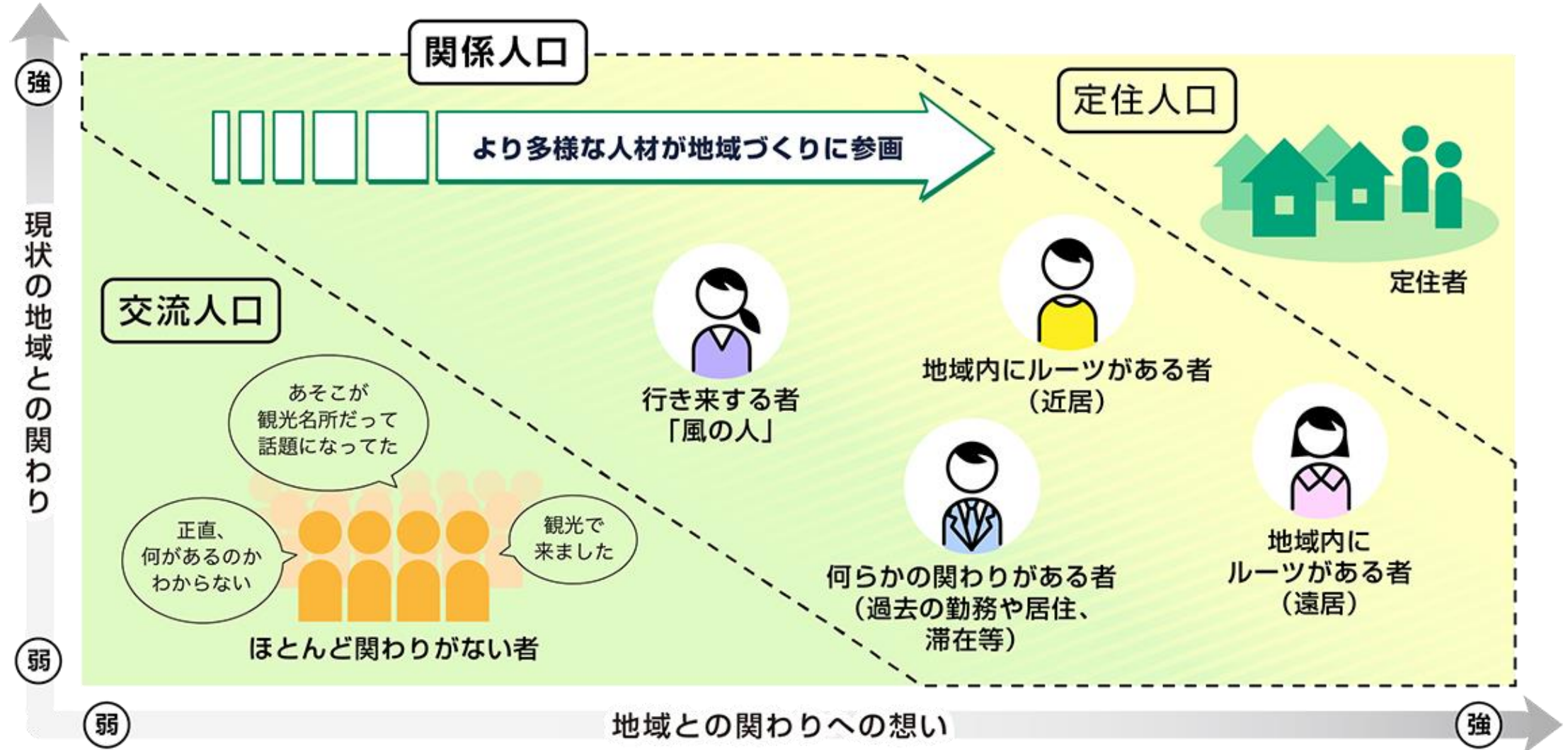
- ・ 全国の「**不登校生徒・閉じこもり生徒**」を受け入れ・支援する。(離島留学生制度)
- ・ 優れた自然環境や海洋性景観など島の自然を生かした**海水浴**や**釣り**、**カヌー**、**ヨット**、**漁業体験**など、多彩な海のアクティビティをそれぞれの島で体験できる体制の構築。

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉です。

くりの担い手不足という課題に直面していますが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づく

・関係人口となった方の声（インタビュー）は[こちらへ](#)

関係人口とは、移住した「**定住人口**」でもなく、観光に来た「**交流人口**」でもない、**地域と多様に
関わる人々を指す言葉です**





いししま 家島 空き家対策協議会



家島諸島

兵庫県姫路市の沖合にある家島諸島。
 姫路港から船で30分、大阪から2時間半というアクセスの良さで
 近年、特に関西圏から多くの観光客の方にお越しいただいています。
 そんな利便性の良い家島で島暮らしを始めませんか？
 家島空き家対策協議会では、
 空き家の所有者さんと家島への移住希望者さんのマッチングを行なっております。
 「島に住んでみたいけど、どんな物件があるの？」
 「家島ってどんなところが知りたい！」
 などなど、移住希望者さんのお問い合わせにもお答えしています。
 島内のお仕事情報についても、お気軽にホームページからご連絡ください！

問い合わせ先

<https://ieshima-akiya.jimdofree.com/>
 上記 URL のメールフォームからまずはお気軽にお問い合わせください。
 後日、担当者からご連絡させていただきます。
 空き家を家島にお持ちの家主さんからのご連絡もお待ちしております。

運営：家島空き家対策協議会
 運営協力：いししまコンシェルジュ合同会社、NPO 法人いししま、姫路市地域おこし協力隊（伊藤）



\\ 家島空き家対策協議会って？ //

家島島内のボランティア団体を中心となって、令和元年の夏から活動を始めました。
 私たちは、家島の有休不動産である空き家の活用・管理により、島の活性化を目指します。
 家島には不動産会社がありません。
 なので、これまで移住希望者さんが家島に住みたいと思っても、どこに問い合わせたらよいのかわからないという意見が多かったのです。
 地域側でも、実際の空き家の状態というのは把握しきれていない部分がありました。
 しかし、空き家を適切に管理しないと、使えない空き家が増えていく一方。
 そこで、私たちは島内の空き家の調査を始めました。
 そして、活用を希望する持ち主さんから空き家を借り、空き家を求める人に提供することで、移住者さんや新たに事業をしたい方、二地域居住者さんの支援をしています。
 まだまだ使える建物が使えなくなるのは非常にもったいないことだと考え、空き家を貸したい人と借りたい人を結びます。

令和2年12月現在で7軒のマッチングを行いました！

家島ってどんなところ!?

- ・姫路港から船で30分！中核都市・姫路本土にもすぐ出られるので**都会と田舎のいいとこどり**！
- ・船は約1時間に1本、1日往復16便（令和2年12月時点）。
島から姫路本土に仕事で通っている方、逆に姫路本土から島に通っている方も多い！**様々なお仕事の選択肢が♪**
- ・人口2500人、5kmの小さな島に**病院が2つ**（診療所とクリニック）もある！
- ・幼稚園から高校まである！子育てにとっても適した島！中でも家島高校は、わざわざ家島高校に通いたくて引越して来る方も♪
- ・島にはいくつもの商店が、さらに岡山から行商に来る船もあり、**島を出なくても生活に困らない！**
郵便局、銀行、役場支所、図書館、公民館もあります♪
- ・アマゾンやヨドバシカメラなど**離島送料が掛からない！**アマゾンプライムにも対応。
- ・魚が**美味しい！**魚屋では、活きたまま魚を売っています。
家島では「死んだ魚は猫も食わない」と言うほど新鮮な魚を日常的に食べられる♪
- ・コンパクトな島なので、**車がなくても大丈夫！**ほとんどの方が原付・自転車移動。
- ・水は、赤穂から海底送水管で運ばれている！ほとんどの家に上下水道が完備。**都会と同様水道をひねれば水が使えます！**
水道料金は姫路市の料金体系なので特別高いわけではない。
- ・光通信が整備されているので、**テレワークにもおすすめ！**
- ・教科書にも載っている軽自動車の救急車があり、緊急時はすぐに出勤。
さらに救急艇やヘリポートもあるので、**万が一の際の本土への輸送も対応！**
- ・デイサービス施設と特別養護老人ホームがあり、**お年寄りのケア体制もある！**
- ・2006年に姫路市と合併しましたが、真浦区会・宮区会の2つのしっかりした**自治会の体制がとられている！**
- ・B&G 海洋センターという施設があり、お安い価格でスポーツができます。夏はカヤックや SUP も！
ワーケーションにもオススメ！

家島は海も都会も近いのが嬉しい！
 毎日楽しく生き生きと暮らしています！



神奈川からの移住者さんの

◆ 漁業

(1) 漁業の人出不足

→ ・労働環境の改善(できる限り機械化)、・採用方法の見直し

a) デジタル技術を採用して業務を効率化

→ ・危険な業務に従事する場面や全体的に業務量の削減
・生産性を高める「**スマート水産業**」の推進

(ICTを駆使して操業の効率化が図られた漁業の営み)

b) SMSで情報を発信

→ ・漁業の様子や採用に関する情報を発信

c) Uターン就職する人材を狙う

d) 特定技能外国人労働者(現在マレーシア人6名採用)を雇用し、定着率を高める

e) 女性の漁業従事者を採用 → 自動化・機械化を進めながら、男女の仕事の分担

(2) 「CAS(キャス)システム」の導入

細胞組織を壊すことなく、冷凍、鮮度を保ったまま魚介を出荷できる



(3) 地産地消の取り組み

- a) 「**姫路まえどれ市場**」開設し、魚の販売、加工品などのお土産販売、食堂を経営しながら、水産物の調理方法、食べ方などの紹介。
- b) ホームページでのPR
坊勢漁協の「**ぼうぜガニ(ガサミ)**」、「**いかなごのくぎ煮**」、「**干しエビ**」、「**骨切り鰐**」「**カキ**」等を加工品の宣伝
- c) 6次産業化の取り組み→ 多獲魚、未利用魚、低利用魚、海藻類を加工して商品開発を行い、直接販売を行う

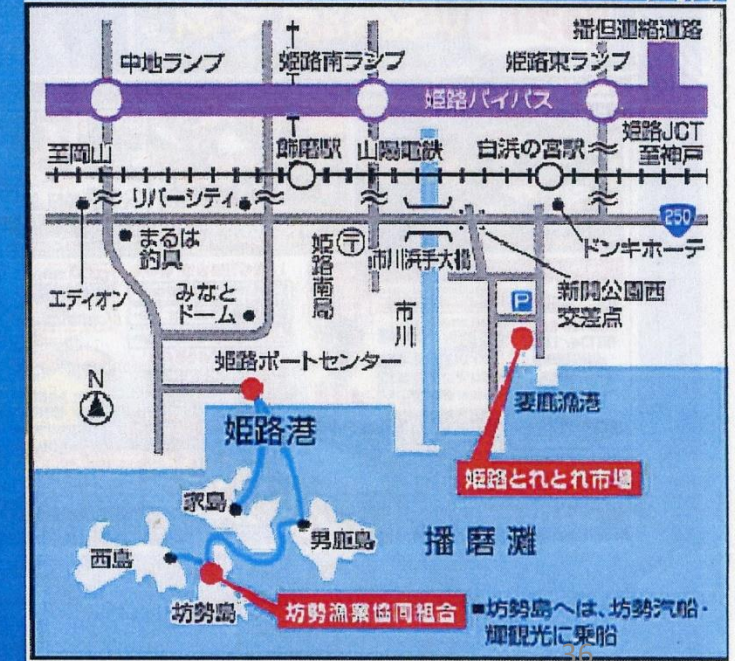
(4) 体験漁業の取り組み

魚の産地を知ってもらう漁業見学体験船を導入し、大人や小中学生に体験漁業をしてもらう

JFぼうぜ 姫路まえどれ市場



- 平成27年3月25日
- 敷地面積 1,859.34㎡
- 鉄骨ALC造・カラー鋼板葺 平屋建865.42㎡



漁業体験・見学船の整備 (建造した船舶の概要)



事業実施年度	平成29年度 補正	
補助事業名	浜の活力再生交付金	
	水産業強化対策整備交付金	
	水産業強化対策支援事業	
目標	機能高度化目標	
項目	単位	備考
総事業費	140,600,000 円	税抜
補助金	94,202,000 円	
うち 国	70,300,000 円	
うち 県	9,842,000 円	
うち 市	14,060,000 円	
自己資金	46,398,000 円	税抜
全長	24.4 m	
全幅	4.9 m	
深さ	1.56 m	
船船総トン数	19 トン	
機関	890 KW	
型式	12M140-AP2	
旅客最大搭載人員	80 名	平水海域
	56 名	限定沿海
不定期航路許可取得		播磨灘周遊
レーダー	FAR-1417 (2m空中線、48rpm)	
GPSプロッタ	GP-3700	
サテライトコンパス	SC-70	
マルチビームソナー	WMB-3230	
モニター (19インチ)	FDS1903	
水温計	RD-33, MT-0020A	
2.7MHz 無線機	DR-100 (アンテナ、スピーカー)	
4.0MHz 無線機	DM-200 (セレコールアンテナ、スピーカー)	
船内モニター (19インチ)	4台設置 FDS1903	
冷暖房設備	エアコン (2.8kW・耐塩害仕様) エアコン (2.5kW・耐塩害仕様) エアコン取付部材 デフロスター用ヒーター	
便器	LIXIL C-P25S	
便座	LIXIL CW-KB21	



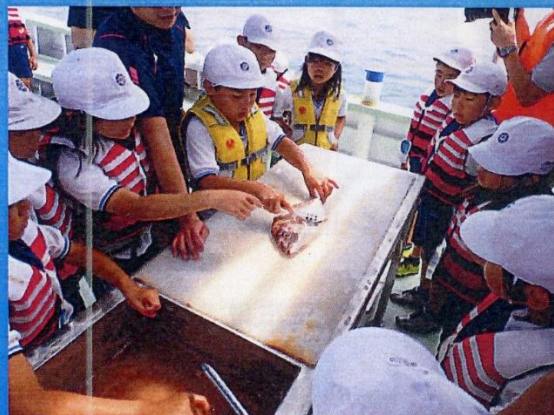
ツアー実施状況：若年層坊勢島上陸編



ツアー実施状況：都市部住民編



ツアー実施状況：若年層漁業体験編



◆ 家島諸島活性化のための提言

- (1) 「**広報力**」「**交流**」「**民間企業**」の3要素を機能的に活動できる体制づくり
- (2) **島外からの多様な人材**の活用
- (3) **新しい時代の流れ**を味力にする
- (4) **関係人口の創出**
 - ア) オンラインイベントや説明会の開催
 - イ) 関係人口の受け入れ態勢を整える
 - ・空き室や民家をリノベーションした宿泊施設の充実
 - ・空き家バンク
- (5) 家島の**海底送水管の延命作戦**(赤穂から13,4Km)
- (6) 全国の「**不登校生徒・閉じこもり生徒**」の受け入れ支援

事業振興のために推進しようとする自治体・産業団体の取組み

★ 姫路市

HPでの周知徹底の他、関係団体等を通じて該当する企業に対し租税特別措置の活用促進、産業振興のための各産業団体への支援・指導・人材育成の推進など。

★ 兵庫県

姫路市と連携して租税特別措置の活用促進、設備投資・雇用促進等の情報提供、その他支援など。

★ 商工会

研修等による島内事業者支援、経営改善指導、情報の提供、各種融資等の相談、推薦、幹施。

★ 観光事業組合

観光PR活動の強化、旅館事業者等に対する支援、その他産業振興への協力など。

★ 業業協同組合・石材採掘共同組合・船舶共同組合等

各事業者に対する支援・指導・各種特産品等による島のPR、その他産業振興への協力など

ご清聴ありがとうございました！

